



県立病院ニュース

病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して

第133号 平成26年6月 病院局発行

4年ぶりの赤字決算 平成25年度決算概要

収益的収支(税抜)

純損益は約8億円の赤字(収益 729億円、費用 737億円)



〈収益〉 H24年度 760.2億円 → H25年度 729.1億円 (△31.1億円)

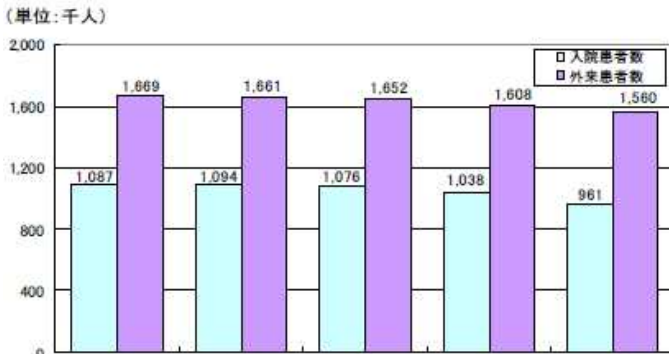
- 病診連携の進展や医師の地域偏在、病院の移譲に向けた準備などにより患者数が減少したため、診療収益は減少。
- 旧新発田病院解体経費に係る繰入金の皆減により繰入金の総額は減少。
- 特別利益は、旧新発田病院の跡地売却があったH24年度から皆減。

〈費用〉 H24年度 758.4億円 → H25年度 737.1億円 (△21.3億円)

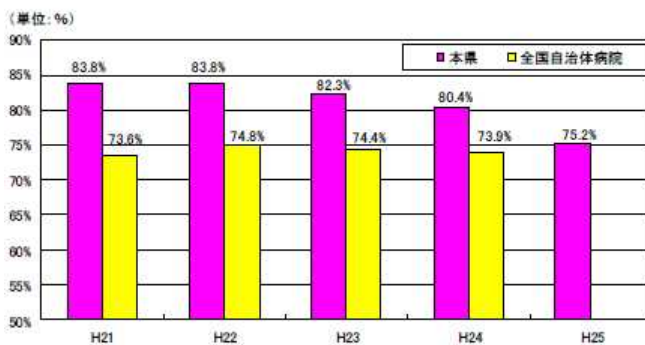
- 大規模病院を中心に抗がん剤など高額薬品の使用増により材料費は増加。
- 電気・ガス料金の値上げに伴う光熱水費の増や、病院設備の保守に関する委託料の増などにより経費は増加。
- 特別損失は、旧新発田病院の解体工事・資産除却処理があったH24年度から大きく減少。

主な統計データ

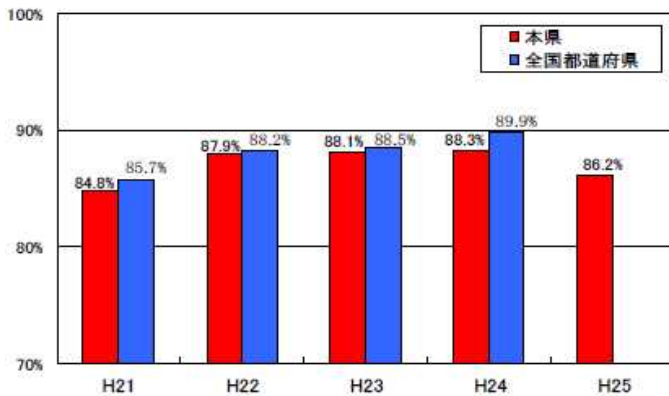
■患者数の推移



■病床利用率の推移

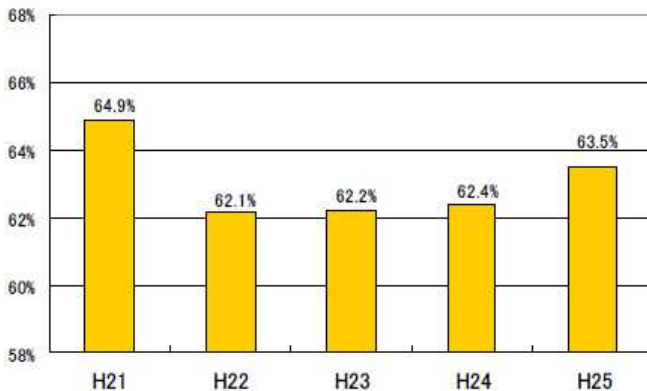


■医業収支比率の推移



※医業収支比率=(医業収益/医業費用)×100

■給与費比率の推移



※給与比率:(給与費/医業収益)×100

・入院は、紹介患者の増加などにより妙高病院など4病院で増加。

一方、在院日数の短縮や外来診療へのシフト、医師の減員、病院の移譲に向けた準備などにより11病院で減少。

・外来は、入院診療から外来診療へのシフトや紹介患者の増加などによりがんセンター新潟病院など2病院で増加。

一方、近隣診療所の開設や地域連携の進展、医師の減員などにより13病院で減少。



地域医療への貢献（松代病院の訪問診療）

・医業収益の減少及び医業費用の増加に伴い、医業収支比率は2.1ポイント減少

・給与費は減少したものの、医業収益が減少したため、給与費比率は1.1ポイント増加

※決算情報の詳細については、病院局ホームページの予算・決算情報でご確認ください。

一層の経営改善の取組強化を

～平成25年度決算及び平成26年度予算から～



若月病院局長

平成25年度の決算では、損益が前年度に比べて大幅に悪化し、約8億円の赤字となりました。この主な要因は、患者数が目標を大きく下回り、特に入院収益が悪化した一方、経費が増加したことによるものです。

県立病院全体で入院患者数は約7万7千人の減、外来患者数は約4万8千人の減で、病床利用率では75.2%と前年度に比べ△5.2ポイントと大きく落ち込んでいます。とりわけ入院患者数が100万人を下回ったのは、昭和34年度以来54年ぶりの事態です。

平成25年度が赤字決算となった今、地域の医療ニーズを把握した上で、病棟ごと診療科ごとの入院枠等の見直しや、病院や診療所等との連携強化を図ることで、目標患者数の確保に努めるなど、経営改善に向けた取組の強化が必要と考えています。

平成26年度の経営環境は4月1日から消費税の増税が行われ、診療報酬の改定では、「医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等」を重点に行われましたが、消費税増税分を除けば1.26%のマイナス改定となります。各病院においては、今年度中に予定されている病床機能報告制度と合わせ、地域のニーズを把握し、将来的な病床機能を踏まえた積極的な対応が求められます。

また、平成26年度予算は会計基準の見直しに伴い、退職手当引当金などの計上が義務化されたことにより、費用が大きく膨らんでおります。費用の削減に向けて更なる経営改善の計画的な取組が必要となっています。

職員一人一人が、患者・家族、地域、病院スタッフから「信頼される病院づくり」に取り組むとともに、病院経営について関心を持ち、院長のリーダーシップの下に一丸となって、経営改善の取組を進めていきましょう。

院内スポーツビューイングの実施（6/1）

～中央病院、スポーツで患者さんに笑顔と元気を届けよう～



院内スポーツビューイング

2014年6月1日 病院 2階 講堂にて

14:20 開場, 15:00 キックオフ

我が新潟県には日本のトップリーグで活躍するプロサッカーチームがあります。そして、そこでは上越市出身の選手も頑張っています。サッカーが大好きな人も、見たことない人も、スポーツ観戦を通して、病院スタッフと一緒に楽しいひとときを過ごしましょう！
お見舞いに来られた方もぜひどうぞ！

※ 体調に自信のない方は、主治医、担当看護師にご相談ください。

患者サービス向上委員会
ホスピタルスポーツビューイング実行委員会

6月1日、中央病院でサッカーの「2014 Jリーグヤマザキナビスコカップ」第7節、アルビレックス新潟一大宮アルディージャ戦の院内ビューイングが行われました。院内ビューイングはサポーター有志と同病院の内科部長、石田卓士さんが中心となって企画し、アルビレックス新潟と実現にむけて打ち合わせをしてきたそうです。

会場となった講堂に、アルビサポーターと入院患者、見舞客合わせて約100人が集まり、“アルビ戦士”の戦いぶりに熱い声援を送りました。ハーフタイムにはAED（自動体外式除細動器）の使い方を伝える講習会が開かれ、病院ならではの催しとなりました。新潟県で病院を会場にパブリックビューイング（PV）を行うのは、4月の新潟大学医歯学総合病院に続き2例目だそうです。

地元「上越タイムス」にもとりあげられ、「信頼される病院づくり」の1つの取組になったのではないのでしょうか。



[写真上]院内ビューイングチラシ

[写真下]院内ビューイング当日の様子（6/1）



「信頼される病院づくり」にかかる取組をお知らせください！

皆様からの「こんなことやっているよ」という情報提供や投稿を心からお待ちしております！

病院局業務課改革室

E-mail: ngt400020@pref.niigata.lg.jp